

令和5年度 学校評価書

室戸市立羽根中学校

【学校教育目標】 確かな学力と主体性を身に付けた、心豊かでたくましい生徒の育成
【研究主題】 確かな学力と豊かな心を育てる授業づくり ～仲間との関わりを通した表現活動の充実～

評価（A：目標を十分に達成）（B：ほぼ達成）（C：やや不十分）（D：改善を要する）

	中長期学校経営目標 【R4年度～R6年度】	短期目標 【今年度の具体的な取組】	評価項目 【今年度の取組の評価指標】	達成状況	自己 評価	改善方策	関係者 評 価	学校関係者評価
確かな学力	確かな学力の育成 ◇全国学力・学習状況調査結果が全国平均以上又は、小学校6年時経年比較+3P以上となる ◇高知県学力定着状況調査結果が全国平均以上又は、小学校6年次経年比較+3P以上となる ◇学校評価アンケートの「仲間と関わり合う機会」「表現する活動」項目で肯定的評価平均が90%以上となる ◇学校評価の「確かな学力」に関する学校関係者評価がAとなる	1. 確かな学力の育成 ◇全国学力・学習状況調査結果が全国平均並又は、小学校経年比較+2P以上となる ◇高知県学力定着状況調査結果が全国平均並又は、小学校経年比較+2P以上となる ◇学校評価アンケートの「仲間と関わり合う機会」「表現する活動」項目で肯定的評価平均が80%以上となる ◇学校評価の「確かな学力」に関する学校関係者評価がB以上となる	1. 校内研修 ①研究主題に沿った授業づくり ・「仲間との関わり」を深めるために「聞く態度」の向上。 ・「めあて」「課題」と対応した「まとめ」を掲示し構造的な板書。◇板書についての生徒アンケート強肯定60%以上。 ・「自ら学ぶ力」を育成するために、効果的な「振り返り」を試行。◇ふり返りについての生徒アンケート強肯定60%以上。 ・「仲間との関わり」、「表現活動」の充実のため、ICT活用やグループ活動を試行。 ◇仲間と関わり合う機会・表現する活動についての生徒アンケート肯定的評価80%以上。 ②公開授業及び研究授業 ・授業改善プランと連携し、上記の取組の進行、その成果と課題について検討、評価を行う。 ③各種学力調査の結果の分析と共有 ・研究主任、各教科の担当を中心に学力調査の問題を分析し、生徒に必要な支援について試行する。分析方法については、より効果的なものを試案。 ◇取組の評価は、チーム会や校内研修で検討し、より客観的に評価できるアンケート等の方法について思案する。	1. 校内研修 ①生徒アンケート(強肯定、1学期→2学期) ・「聞く態度の向上」59%→78% ・「めあて・課題」と「まとめ」掲示 93%と79%→93%と93% ・「思考の流れが分かる構造的な板書」72%→82% ・「振り返り」の実施と効果の実感 52%と45%→61%と64% ・「タブレットを使う活動」と「グループ活動」69%と76%→89%と89% ・「仲間と関わり合う学習」48%→73%・「表現活動」77%→73% ①と② 上記の結果から、県作成の「授業づくりBasicガイドブック」の内容に沿った授業改善が、生徒がその変化を実感できるレベルで進んでいると言える。これは、公開授業や研究授業を継続して行ってきた成果である。「仲間と関わり合う学習」は弱肯定を含めれた100%達成となる。生徒が安心して学習できる場所づくりを目指して、「聞く態度」の改善指導や道德での研究授業等を実施し、一定の成果を認めることができた。 ③ 全国学調や県学調については、チーム会や校内研修で、問題と結果について、その特徴を分析した。その結果、どの学年も、長文や資料(図、グラフ、表など)の読解力に弱さが見られることが分かった。現在、各教科でその対策を試行するとともに、教科を越えて行うことができる支援について検討中である。	B	1. 校内研修 ①と② 授業改善と安心して学習できる場所づくりの2本立ての取組は成果が出ているので、来年度も継続したい。「聞く態度」を向上させ、「分からない」「教えて」が自然に言える仲間づくりを目指す。 ③ 県学調の結果については、目標値並びに、県や全国の平均値が公表されてから、その分析を掲載する。◇取組の客観的評価は、生徒アンケートと学力調査の分析を主とする。生徒は教員を好意的に評価する傾向があるので、絶対値ではなく相対値を重視する。今年度は「振り返り」の値が相対的にかなり低く、「振り返り」の取組強化が課題と分かる。	B	・生徒アンケート等からも成果が出ていると思います。 ・学習発表会等でも良く取り組みができていて良かったと思います。 ・80%以上目標が未達だが、他は目標達成できて素晴らしい。 ・学調でも弱点を把握できて対策を考えられている。 ・自己評価を尊重します。目標達成に向けて努力されている。 仲間との関わりや表現活動は、肯定的評価は高いようですね。 ・学力向上への取り組みを行い効果や結果について、概ね達成されている。
豊かな心	規範意識の醸成と自尊感情の育成 ◇道德意識調査の強肯定的率 「道德の勉強は、好きだ」80%以上 「自分にはよいところがある」80%以上 「学校の規則を守っている」100% 生徒指導上の諸課題への対応・支援 ◇学校生活アンケート肯定的回答率 「学校が楽しい」100% 「私はひとりの大切な人間である」100% ◇いじめ解消率100%	1. 規範意識の醸成と自尊感情の育成 ◇道德意識調査の強肯定率 「道德の勉強は、好きだ」70%以上 「自分にはよいところがある」70%以上 「学校の規則を守っている」95%以上 「家庭で取り組む高知…」55%以上 2. 生徒指導上の諸課題への対応・支援 ◇学校生活アンケート肯定的回答率 「学校が楽しい」90%以上 「私はひとりの大切な人間である」70%以上 ◇いじめ解消率 95%以上	1 規範意識の醸成と自尊感情の育成 ①対話的な道德授業の実践 ②夢プロの実施 ③あいさつ運動の実践 ④全学年参観日等で道德の授業公開及び全教員の授業実践 ⑤日常の生活における道德的実践の指導 (評価指標→道德意識調査強肯定率) 「道德の勉強は、好きだ」70%以上 「自分にはよいところがある」70%以上 「学校の規則を守っている」95%以上 「家庭で取り組む高知…」55%以上 2 生徒指導上の諸課題への対応・支援 ①生徒への積極的な価値付け評価の実施及び放課後学習指導 ②生徒指導の三機能を重視した行事・学級・教科経営 ③定期的な校内支援会の実施とSCや地域組織の活用 ④いじめの把握調査の実施と課題への対応 ⑤担任及びSCによる全生徒個別面談の実施 (評価指標→学校評価) ①「学習や活動の努力を認めてくれる」強肯定80% ②「私はひとりの大切な人間である」強肯定70%以上 ③Q－Uアンケート「学校生活満足群」80%以上 ④SC等の参加による校内支援会を毎月実施 ⑤いじめ解消率 95%以上 ⑥「学校が楽しい」強肯定90%以上	1, 規範意識の醸成と自尊感情の育成 ①～⑤ 道德意識調査結果 道德の勉強は好きだ96.6→96.6% (○)、自分には良いところがある89.7→89.7% (○)、学校の規則を守っている100→96.6% (○)、家庭で取り組む高知の道德37.9→44.4% (×) 2, 生徒指導上の諸課題への対応・支援 ①～⑤ 学校評価等の結果 学習や活動の努力を認めてくれる97→94% (○)、私は一人の大切な人間である86→84% (○)、学校生活満足群59→68.4% (×)、校内支援会実施率100% (○)、いじめ解消率100% (○)、学校が楽しい96→100% (○)	A	1. ①～⑤の組織的な実践により、3つの指標を達成することができた。「家庭で取り組む高知…」の活用については、指標は達成できなかったものの、年間を通して活用率が増加している。学校だけでなくや授業で活用することが生徒の意識づけにつながるため、来年度も計画的に活用する。 2. 3つの評価指標の達成状況から、①～④の取り組みが生徒指導・支援において効果的であったと考えられる。QUの指標を達成できなかったため、来年度は各学年で係り活動や班長会など、生徒の主体的な行動を促す取り組みを仕組んでいく必要がある。	A	・成果等の結果からも達成されていると思います。 ・いじめ解消率や学校が楽しい等とても良いことです。 ・道德的实践が一部目標未達。 ・学校生活満足群も目標未達だったが、これは是非達成して欲しい。 ・道德意識は全体として高いようですね。学校が楽しい100%は素晴らしい。 ・アンケート結果から目標の達成が十分確認できていた。

健やかな体	体力向上と運動習慣確立 ◇全国体力・運動能力・運動習慣調査結果が県平均以上となる ◇「体育の授業は楽しい」「運動が好き」100%となる ◇家庭での運動する時間や機会を増やす。	体力向上と運動習慣の確立 ◇全国体力・運動能力・運動習慣調査結果が県平均以上となる ◇「体育の授業は楽しい」「運動が好き」100%となる ◇家庭での運動する時間や機会を増やす。	体力向上と運動習慣の確立 ①生徒が主体的に活動できる体育の授業づくり ②体育大会に向けた取組の実施 ③昼休みの体育館利用の呼びかけ ④生活リズムと家庭の運動時間を組み合わせる（取り組みの評価指標） ①「保健体育授業は楽しい」肯定的評価100% ②体育大会の達成感の向上 ③昼休み体育館利用人数→全校生徒半数以上 ④運動することを長期休業前に呼びかける。 ⑤体力・運動能力向上プログラムの活用	授業でICTを活用することで、生徒が主体的に取り組む場面が設定でき、「楽しい」「できた」「わかった」など達成感のある授業づくりができた。90%の生徒が保健体育の授業は「楽しい」との回答がみられた。昨年度は生徒に休日にできる運動について考えさせ、各自で取り組む機会を作ることができたが、今年度は長期の休みに呼びかけだけの取り組みであった。普段の生活での生徒の運動量は、部活動、体育の授業での活動のみとなっており、運動の量の差が大きい。特に男女の差が大きい。全国平均から見ると体力面（持久力）、筋力面が低い。	B	ITCの活用で授業づくりににおいて「わかった」「楽しい」項目から成果がみられたので更に活用方法を工夫していく。体育授業のアップ時に筋力・持久力を高める運動も取り入れていく。継続して家庭や休日で体を動かす習慣作りに取り組んでいく。	B	・体育授業や部活以外で休日に運動することはなかなか難しいと思います。具体的にどんなことができるか指導があればと思います。また、場所等もあまりないのではないのでしょうか。 ・学校外での体力向上においてICTの活用はどうだったのでしょうか。 ・家庭への呼びかけはどのようであったか。 ・自己評価を尊重します。個人の運動能力の差があるのは仕方ないかな。 ・取り組みにより自主的な運動習慣が身に付く効果が見られた。
	不登校への総合的な対応 ◇不登校生徒数「0」 ◇適応指導教室の支援を受けている生徒数「0」 2. 防災を中心とした安全教育・安全管理の充実 ◇計画に沿った防災教育や訓練の実施率100%	不登校への総合的な対応 ◇不登校生徒数「1以下」 ◇適応指導教室の支援生徒数「1以下」	規範意識の醸成と自尊感情の育成 ①夢プロの実施 ②あいさつ運動の実践 ③全学年参観日等で道徳の授業公開 (2)生徒指導上の諸課題への対応・支援 ①生徒への価値付け評価の実施 ②生徒指導の三機能を重視した経営 ③校内支援会で組織的な支援や未然防止 ④いじめの把握調査の実施 ⑤担任及びSCによる全生徒個別面談の実施”	「夢プロ」は月ごとの重点目標や学校行事等に計画的に位置づけ、効果を上げた。また、伝統となっているあいさつ運動も定着しており来客者の評価も高い。さらに本年度は全学年一斉道徳を実施し、異年齢間で学ぶ機会も取れた。不登校については、12月末時点で30日以上欠席者が3名となったが、現在関係機関と連携した支援に努めている。 生徒指導対応については、全職員で情報共有ができ、初期対応ができトラブルを未然に防止することができた。学期ごとに面談を行い生徒と教師がつながることができた。価値付け評価の場面や頑張りを伝える（伝えるだけでなく、掲示し視覚で伝える）場を設け生徒一人一人がお互いのよさを見つけたり認め合ったりすることができ、よりよい人間関係が作れた。いじめとして対応すべき事案はなかったが、年間数件の悪口や仲間はずれと感じる生徒の申し出には、その都度対応し解決に至った。	B	「夢プロ」の取り組みは、各月の重点目標や学校行事で集団に貢献する言動を価値付け評価し続けることで、誰にでも評価される機会を提供し、その掲示物はその後も子どもの励みになった。また、本校の伝統である「あいさつ運動」の定着や本年度の学校行事では教員と生徒が一体となって取り組む姿が効果的であった。	B	・不登校生徒が少しでも出席できるような支援が必要だと思っています。 ・避難道の清掃はとても良いと思います。 ・地域配布の取り組みは学校や子ども達のがよく分かりとても良いと思います。 ・あいさつ運動は、何時何処でもできる人に育って欲しいと期待している。 ・欠席者の対応は大変でしょうが頑張らしましょう。 ・生活習慣の大切さは100%に（大人になって結果が出ます。） ・その他は良くできていると思います。
安全・健康	健康教育 ◇朝食を毎日食べる生徒の割合100% ◇「健やかな体」の評価がAとなる	健康教育 ◇「朝食を毎日食べる」生徒の割合97%以上 ◇「生活習慣の大切さが理解できた」割合96%以上 ◇学校評価の「健やかな体」に関する評価がAとなる。	健康教育 ①生活、メディア調査の分析と課題への指導及び家庭・地域への啓発（保小中連携） ①生活習慣の大切さを理解した割合 90%以上 ②関係機関や地域学校協働本部を活用した食育の取組と取組成果の周知 ②「朝食づくり」「自分でつくるお弁当の日」「郷土料理づくり」等の実施と取組成果の周知100% ③年3回の生活リズム習慣と年2回のメディア調査の取組啓発と結果の公表 ③保小中連携のお便りやリーフレットの地域配布	①生活習慣の大切さを理解した割合：90.6% ②「朝食づくり」「自分でつくるお弁当の日」「郷土料理づくり」等の実施と取組成果の周知100% ➡・生徒の取組様子の写真を保健だよりに掲載、活動後は振り返りの実施と生徒アンケートの集計分析し、報告。 ・1人でお弁当作りに挑戦したり、積極的に活動に参加する生徒の増加。 ③年3回の生活リズム調査と年2回のメディア調査の取組啓発と結果の発表➡・環境部が考察し、発表として学期末総括集会で発表。 ③保小中連携：羽根公民館に協力を依頼し、常会長を通して羽根地区全体にメディア調査に関するお便り、リーフレットをト計3回配布。9月には保小中連携講演会を企画し、実施できた。	B	健康教育 ①生活面について日常的な指導も含め、課題のある生徒も一部みられるが、少しずつ意識しながら規則正しい生活習慣をおくることが出来ている生徒が増えている。家族と一緒にする機会や改善のきっかけでもある生活調査・メディア調査は今後も継続し、課題のある生徒へのアプローチの仕方、自己管理能力の育成に努めたい。 ②目的・目標を生徒に理解させた上で、事前の周知を必ず行う。事後の活動では、振り返りシートを用いる。 ③地域配布は今後も羽根公民館、羽根地区常会長に協力を得ながら継続していきたい。	B	・自己評価を尊重しますが、保小中の連携が取れている。教員と生徒が一体となっているいろいろな事に取り組んでいるのでAにしても良いのでは。 ・目標に対して取り組みはしており課題もあったが概ね達成されている。 ・小規模校ながら30日以上欠席者3名を考慮してBとしました。
	【保護者や地域住民の理解と協力を得た学校運営を行う】 ◇協働本部事業実施率100% ◇通信等毎月発行・参観日保護者参加率 50% ◇地域行事への参加・協力100%	①地域学校協働本部事業の推進 ②学校の情報等伝える機会を充実させ、開かれた学校づくりをすすめる ③PTA活動や地域の行事に参加し、保護者や地域との意思疎通を図る	①地域学校協働本部事業の計画と実施 実施率 90% ②学校だより、学級だより等の通信を毎月発行 HPの更新、参観日の保護者参加率40%以上（開催日や内容の工夫） ③羽根海岸一斉清掃、十兵衛相撲大会、市民館ふれあい祭り、公民館文化発表会、市民館行事への協力	①愛校作業日には、多くの保護者の参加を得て生徒と共に学校環境整備に取り組めた。また、学校に接続する避難道整備は、参観日として参加を募る予定。 ②学校だより、学級だよりは計画的に発行し、生徒の活躍の様子を保護者や地域に広報することができた。HPは市教委のハード整備の遅れのため整備待ちである。 ③地域行事等への参画は市民館ふれあい祭りや公民館文化発表会、避難道整備などに協力すると共に、本年度の学校行事には沢山の保護者や地域の方々に生徒の活躍の様子を見ていただくことができ感謝している。（学習発表会参観者70名程度、参観保護者家庭72%）	A	学校の業務改善や教育課程の効率化の観点から、地域貢献の機会は減少せざるを得ないが、保護者や地域の方々に学校行事を参観できる機会はさらに増やすことができると考えている。	A	・学習発表会は各学年の自主性、個性が感じられる発表でした。 ・全体に良く協力できていると思います。 ・この項目のレベルアップは相互の意思疎通度合いにつきと思います。頑張らしましょう。 ・生活習慣のアンケートの取り組みなど、家庭や地域の方にも知っていただく努力が開かれた学校運営に繋がっている。 ・地域とのつながりを持ち活動も十分行えていた。